令和4年度(2022年度)

自己点検・自己評価報告書

2023年3月

学校法人新潟高度情報学園

新潟高度情報専門学校

新潟高度情報専門学校は、技術者の養成に合わせ、教養・人格度の高い道義・礼節・作法をも身に付けた人間性豊かな技術者および実務者を育成することを目的としている。その建学の精神に則り、適正な学校運営を推進していくため、自らの教育活動と学校運営において、社会のニーズを反映した目標の設定を行う。そして、その達成度や達成に向けた取り組みの適切さなどについての評価を行い、これを公表する。このことは学校としての組織的・継続的な改善を図ることや地域への貢献を果たすことに繋がる。

これからも地域に根差した特色のある魅力的な専門学校づくりを目指すとともに、地域におけるステークホルダーとの密接な関係および信頼関係を築いていくため、自己評価、学校関係者評価を行い、公表する。

以下、令和４年度の自己点検・自己評価結果を記す。

令和４年度自己点検・自己評価委員

氏名	役職・所属
小見　英晴	新潟高度情報専門学校　学校長
神田　優	新潟高度情報専門学校　学校長代理
横堀　正浩	新潟高度情報専門学校　事業推進部長
亘　英一	新潟高度情報専門学校　教務部長代理
金子　貴之	新潟高度情報専門学校　教務課長
岩野　賢一	新潟高度情報専門学校　情報学科主任
樋口　直武	新潟高度情報専門学校　情報工学科主任
大黒　健一	新潟高度情報学園　　学園管理部長

令和４年度自己点検・自己評価

１.学校の教育目標

学校教育法に基づき、技術者の養成に合わせ、教養・人格度の高い道義・礼節・作法をも身につけた、人間性豊かな技術者及び、人材を育成する。

設立時の役員の理念を大切にしており、その精神は現在も引き継がれている。

また、最新技術の習得にも力を入れ、地元の新潟はもとより、これからの日本の情報技術の発展に寄与できる人材育成を目的としている。

２.本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

・職業実践教育を強化するため、産学連携、地域連携およびカリキュラムの充実を図る。
・学校理念や教育方針を再確認し、学校の新たな魅力作りを進め質の高い学生を輩出する。

３.評価項目の達成及び取組状況

（１）教育理念・目標

評価項目	適切…４、ほぼ適切…３、 やや不適切…２、不適切…１
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか （専門分野の特性が明確になっているか）	④ ３ ２ １
・学校における職業教育その他の教育指導などの特色は何か	④ ３ ２ １
・社会経済のニーズなどを踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ ３ ２ １
・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者などに 周知されている	④ ３ ２ １
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科などに対応する業界のニーズに 向けて方向づけられているか	④ ３ ２ １

①課題

・社会環境や変革に合わせ、魅力的な学習内容の改善、カリキュラムの見直しを行うための情報収集を行う必要がある。

②今後の改善方策

・学生が卒業後の社会環境で活躍できるよう、カリキュラム内容の充実やトレンドの確認、新技術の修得目指す。加えて、新学科の設置も意識しつつ新潟高度情報専門学校の魅力に繋げるための研鑽を行う。

③特記事項

・特になし。

（２）学校運営

評価項目	適切…４、ほぼ適切…３、 やや不適切…２、不適切…１
・目的などに沿った運営方針が策定されているか	(4) 3 2 1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	(4) 3 2 1
・運営組織や意思決定機能は規則などにおいて明確化されているか、 また、有効に機能しているか	(4) 3 2 1
・人事、給与に関する規程などは整備されているか	(4) 3 2 1
・教務・財務などの組織整備など意思決定システムは整備されているか	(4) 3 2 1
・地域社会などに対して学生が交流できる体制が準備されているか	(4) 3 2 1
・教育活動などに関する情報公開が適切になされているか	4 3 (2) 1
・情報システム化などによる業務の効率化が図られているか	(4) 3 2 1

①課題

・新型コロナウイルス感染期間に築かれたリモート技術や業務スタイルとあわせ、アフターコロナにおける従来の対面授業形態や校外活動、就職活動について再確認・対応する学生指導が必要である。

・学校行事や産学連携及び対外活動の活動範囲も広くなってきている。ホームページやSNSを通して教育活動などの紹介をしているが、一部紹介の出来ていない情報もあり情報公開が適切とはいえない。

②今後の改善方策

③特記事項

・特になし。

（３）教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1		
	工学	情報	ゲーム
・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針などが策定されているか	4	4	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	4	3
・学科などのカリキュラムは体系的に編成されているか	3	4	3
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	4	3
・関連分野の企業・関係施設などや業界団体などとの連携により、カリキュラムの作成・見直しなどが行われているか	4	4	3
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ実技・実習など）が体系的に位置づけられているか	4	4	2
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4	4	4
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	4	4
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	4	4
・資格取得などに関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3	4	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	4
・関連分野における業界などとの連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	4	3
・関連分野における先端的な知識・技能などを修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3	3	3
・職員の能力開発のための研修などが行われているか	3	3	3

①課題

［情報工学科］

・特になし。

［高度情報システム／情報システム科］

・職業教育に関する教科目・研究機材などの質を充実させる。

・教育連携校カリキュラムの効果的な連携を強化する。

・教員の専門分野における専門性・質の向上とスキルアップを行う。

［ＣＧ･ゲームクリエイター科／ＣＧ･ゲーム開発科／ゲームクリエイター科］

・情報教育の強化に伴う１年次カリキュラムの統一化により、従来カリキュラムの大幅な見直しが必要となる。

②今後の改善方策

［高度情報システム／情報システム科］

・当校カリキュラムと教育連携校カリキュラムの方向性や強み、効果など、カリキュラムの改善を図り、当校の特色するため検証を継続する。

・教員のスキルアップのため外部研修への参加、内部研修の実施を行う。

［ＣＧ・ゲームクリエイター科／ＣＧ・ゲーム開発科］

・修得しやすいゲームエンジンによる開発を先行して、ネイティブ開発を３年次にまわすことで就職活動時の企業提出作品を確保する。

③特記事項

・特になし。

（４）学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1		
	工学	情報	ゲーム
・就職率の向上が図られているか	3	4	2
・資格取得率の向上が図られているか	4	4	2
・退学率の低減が図られているか	4	4	3
・卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	4	3	4
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	4	4

①課題

［情報工学科］

・特になし。

［高度情報システム／情報システム科］

・数年続いた新型コロナウイルス感染症も落ち着いてきた状況ではあり、就職活動も混乱なく進められているが、就職活動に消極的な学生も散見される状況であった。

［ＣＧ・ゲームクリエイター科／ＣＧ・ゲーム開発科／ゲームクリエイター科］

・ゲームに対する関心が低くゲーム業界への就職意欲も低い学生が増えており、学習や就職活動に影響を及ぼしている。

②今後の改善方策

［高度情報システム／情報システム科］

・対策期間以前から資格取得の動機づけ、維持及び向上を図るべく指導を行う。

・卒業生を含む企業との連携を強化して情報収集を強化する。

・オンライン授業の内容の充実を図る。

［ＣＧ・ゲームクリエイター科／ＣＧ・ゲーム開発科／ゲームクリエイター科］

・ゲーム業界への就職意欲が低い学生には、ガイダンス等を通じて早期にＩＴ業界への転身を促し、学習や就職活動の意義を持たせる。

③特記事項

・精神疾患や経済面に不安を抱えている入学生が増えており、その対策を研究している。

（５）学生支援

評価項目	適切…４、ほぼ適切…３、 やや不適切…２、不適切…１
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	(4) 3 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	4 (3) 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4 (3) 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	(4) 3 2 1
・学外活動に対する支援体制は整備されているか	(4) 3 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	(4) 3 2 1
・保護者と適切に連携しているか	(4) 3 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	4 (3) 2 1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 (3) 2 1

①課題

・新型コロナウイルス感染予防から学外連携において実施できないものがあった。
・就職担当による指導・支援体制に弱い面がある。

②今後の改善方策

・同窓会名簿のメンテナンスを行う。
・学外活動へ参加する学生へのさらなる指導教育サポートの拡充をすすめる。

③特記事項

・特になし。

（６）教育環境

評価項目	適切…４、ほぼ適切…３、 やや不適切…２、不適切…１
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ ３ ２ １
・校外実習、インターンシップについて十分な教育体制を整備しているか	④ ３ ２ １
・防災に対する体制は整備されているか	④ ３ ２ １

①課題

・特になし。

②今後の改善方策

・特になし。

③特記事項

・特になし。

（７）学生の受入れ募集

評価項目	適切…４、ほぼ適切…３、 やや不適切…２、不適切…１
・学生募集活動は、適正に行われているか	４　３　(２)　１
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	４　(３)　２　１
・学納金は妥当なものとなっているか	(４)　３　２　１

①課題

・情報学科・ゲーム学科ともに出願数が減少した。
・KOUDOらしさ、強みが打ち出されていない。
・女子学生の確保が伸び悩んでいる。

②今後の改善方策

・広報担当と教務が連携し、魅力あるコンテンツ作りを行う。
・各種広告媒体を効果的に利用し、まずは校名認知につながる活動を強化する。
・県外の進学相談会にも積極的に参加し、県外生獲得を強化する。
・女子募集のためのコンテンツやサポートを検討する。

③特記事項

・特になし。

（８）財務

評価項目	適切…４、ほぼ適切…３、 やや不適切…２、不適切…１
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	４　３　(２)　１
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	(４)　３　２　１
・財務について会計監査が適正におこなわれているか	(４)　３　２　１
・財務情報公開の体制整備はできているか	(４)　３　２　１

①課題

・在学生が減少している。

②今後の改善方策

・新入生の安定的な確保を目指す。
・対費用効果を考えた経費計上を目指す。

③特記事項

・特になし。

（９）法令などの遵守

評価項目	適切…４、ほぼ適切…３、 やや不適切…２、不適切…１
・法令、専修学校設置基準などの遵守と適正な運営がなされているか	④ ３ ２ １
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ ３ ２ １
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ ３ ２ １
・自己評価結果を公開しているか	④ ３ ２ １

①課題

・特になし。

②今後の改善方策

・特になし。

③特記事項

・特になし。

（１０）社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…４、ほぼ適切…３、 やや不適切…２、不適切…１
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ ３ ２ １
・学生ボランティア活動を支援しているか	④ ３ ２ １
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練などを含む）の受託などを積極的に実施しているか	④ ３ ２ １

①課題

・特になし。

②今後の改善方策

・特になし。

③特記事項

・特になし。

４. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

（１）職業実践教育、産学連携、地域連携の強化により新潟高度ならではのカリキュラムの充実を図る。

企業協力における実務演習（企業インターンシップ）科目を継続して実施でき、実践的な職業教育が実現できた。学生は学校での基礎・技術教育と企業としての観点や意識の違いを実感できるため、コスト意識や改善意識などが芽生え、就業意識・意欲の変化につながっている。教育連携企業を中心に複数社の協力のもと実務演習を豊富に実施することができた。学生のもつ主観的な考え方と団体・企業がもつビジネス意識とのギャップを認識させると同時に、与えられた課題と適切な指導により就業体験と気づきを得られる授業展開だけでなく、ビジネスモデルの発案・提案からコスト意識をもった設計・開発および発表を想定し、教育連携企業様との協働・指導を深め、実務演習科目の役割を深めることができた。従来のシステム開発を中心とする業務知識の理解を進める就業体験と、新規ビジネスモデルの提案を想定したシステム開発へとつなげた就業体験の二つの手法が形作られ履修の厚みが増した。

今年度は、新潟市生涯学習センターとの協働による市民を対象とした各種パソコン教室の開講に向けた取り組みを再開できた。実施日が、大雪と重なり実施日を延期することもあったが、全４講座とも好評のうちに無事終えることができた。

（２）学校理念や教育方針を再確認し、学校の新たな魅力作りを進め、質の高い学生を輩出する。

新型コロナウイルス感染症の落ち着きが見える中、諸外国の紛争による景気後退に伴う大手ＩＴ企業の停滞がニュースとして取り上げられているが、アフターコロナに対応できるＩＴ人材の育成が必要である。同時に魅力ある学校作りを行い、学校の存在意義、社会貢献を果たしていかなければならない。本校の歴史を踏まえて、初心に戻り、本来ある姿を取り戻し、追求していくことが求められている。

本校が教育理念として掲げていることは、①資格取得、②自分で学べる能力（自ら学ぶ）、③目的に向かって計画・実行できる能力、④コミュニケーション能力の向上、⑤先生を超える学生を輩出、の５つである。今年度は①及び②を重視した。学生間のみならず、教員間においてのコミュニケーションをも強化し、相互に連携した学習環境の確立を目指している。就職面においても、希望就職を可能としており、内外の評価を得ている。今後も教育連携、産学連携を強化し、実務・実践力の向上を目指すとともに、教育力の強化を推進する。新型コロナウイルス感染拡大による弊害か、精神面の弱い学生の増加・多様化が顕著であり、その対応策が問題となっている。入学後の方向性の違いだけでなく、卒業後の先が見通せない、夢を持てない学生、就職活動が起因で不安となる学生が目立ってきている。将来について思い悩み、保護者にも相談できない学生もいる。企業への就職以外の選択肢としての居場所を、保護者とともに入学後から共通の理解で考える必要がある。

定期ガイダンス、担任や科目担当によるガイダンス、検定対策期間中の面談、就職支援

ガイダンス、学生アンケート等を活用して個別面談を実施するなど、教員間での情報共有や個別対応を行った。しかしながら、入学前よりメンタルヘルス不調が疑われる学生は多く、常にメンタルヘルスを好調に保つことは難しく、様々な事由について対応しなければならない。

入学後１年次は学科を問わず合同授業となり、経済産業省 情報処理技術者試験の合格を目指し、ＩＴ基礎力を一翼にＩＴ・ゲーム業界で活躍できるようカリキュラム編成を行った。ゲーム学科は２、３年目で集中したゲーム制作力を養成するカリキュラムへと変更する。

「高度」の文言がつく専門学校として、存在感を再認知される学校となるよう、教育力の強化により就職実績、資格実績の向上を図り、広報業務と教務業務の連携を強化する。